

八十八カ所新たな形

遍路

晩秋の澄んだ空気の薄暗い酒蔵には、ぐいのみを手にした約20人。「いっせえ飲むよ」と味違(あじまち)上機嫌の笑い声が響く。美丈夫で知られる浜乃鶴酒造(高知県田野町)に30分ほど滞在した一行は、手にしたカードに、スタンプを押して引き揚げていった。

酒蔵を巡るスタンプラリー「四国酒蔵88カ所巡り」は、霊場めぐりに発想を得た四国の酒造業者らが、昨年2月に始めた。酒蔵や酒にまつわる神社など香川11カ所、徳島21カ所、高知23カ所、愛媛33カ所の「札所」を選定。四国酒蔵巡り企画委員会によると現在350人ほどが挑戦中だ。

運送会社長の山崎美恵さん(53)「高知市」は、娘を運転手にすべての札所を制覇して「酒神」の称号を与えられた「はちきん」。「道に迷ったらいつも地元の人が教えてくれ、時には酒蔵の主人が迎えに来てくれたこともある。酒蔵の若女将など、若い人がみんな元気だったのも印象的でした」と各酒蔵で手に入れた升を手により返る。

同委員会の発起人、久本酒店(高松市)の佐藤哲也社長(48)が作製した公式ホームページには酒蔵の主人や杜氏の人物、周辺の文化などが生き生きとつづられてい

新・四国のちから

◁ 2 ▷

「永遠に続く道と確信している」

佐藤さんは、「交通網が発達した現代でも、その場所へ行かないと得られないものは案外多い」と話す。

四国4県にまたがり、総延長約1400キロにも及ぶ四国霊場八十八カ所は、四国を代表する文化の一つ。昨秋、世界文化遺産(ユネスコ選定)登録のための「暫定リスト」入りは逃したが、霊場文化は様々な場所で深化をみせている。

観光名所を紹介する「四国おもしろ88カ所」(全国旅館生活衛生同業組合連合会青年部四国ブロック主催)▽「四国のみずべ八十八カ所」(四国地方整備局主催)▽「建築巡礼四国88カ所」(日本建築家協会四国支部主催)など様々な企画の主催者は「一つ一つの「札所」をつなぐことで、四国の新たな魅力発見につながった」と口をそろえる。

一方で霊場そのものの伝承、発信の動きも力強い。徳島県出身の建築家、歌一洋さん(60)は、歩き遍路のための休憩所整備を地元主体で進める「四国八十八ヶ所ヘンロ小屋プロジェクト」に01年から

取り組む。阿波踊りの笠やクシラをイメージしたデザイン料はすべて持ち出し。現在31カ所の小屋が完成した。

「世代間でお接待文化の伝承が断絶しているのでは」という危機感が活動の発端だった。物心ついて間もないころ、お遍路さんに米を分ける家族の姿を見た原体験が心底にあるという。「あの日の自分のように、子どもたちに遍路に集う大人の姿を見せたい」と願う。

遍路文化にかかわる団体同士が連携していこうという集まりもある。07年6月に開かれた「四国遍路に関する組織間ネットワーク構築に向けた協議会」は歌さんの他、遍路道の清掃活動を続ける「NPO法人徳島共生塾一歩会」(徳島県)や、「四国へんろ道文化」世界遺産化の会(愛媛県)などの関係者らが参加。遍路文化を世界に発信していくことで一致した。昨年も6月に開催された。

「個々の団体が何をしているのかさえ知らず、一度集まろうというのがきっかけだった」と同協議会の発起人で、NPO法人「遍路とおもてなしのネットワーク」の

事務局長松岡敬文さん(59)。自らもキリスト教の聖地をめぐるスペイン巡礼道(93年に世界遺産登録)との交流などに取り組む。「遍路道が千年、2千年続くことが本望の願い。遍路道は永遠に続く道と確信している」と力を込めた。

■四国で企画されているおもしろ88カ所

企画名(連絡先)	内容
建築巡礼四国88カ所(0887・52・5141)	木造のお堂からコンクリートの高層建築まで、明治以降の建築作品から選定。その他、おもしろ建築の「番外」、92年以降竣工(しゅんこう)の「別枠」もある
四国のみずべ八十八カ所(087・851・8061)	石積みダム、豊稔池(香川県)や足摺岬(高知県)など、歴史・文化的、景観的に優れた川や海、滝などを選定。同一の川で複数のポイントが選ばれている場合も
四国おもしろ88カ所(088・822・1288)	「食べる」「見る」「遊ぶ」「ネタ!」のテーマごとに各地の隠れた穴場、珍名物、珍名品を紹介。パンフレットには各地の旅館、ホテルの「若旦那(わかだんな)」が登場
四国酒蔵88カ所巡り(087・867・1111)	1県制覇で「酒王」、2県で「酒聖」、3県で「酒仙」、全県制覇で「酒神」の各称号が与えられる。納経帳はホームページから請求可能



蔵の中を見学するスタンプラリー参加者ら＝高知県安芸市赤野甲、第25番札所所有光酒造場



阿波踊りの笠の形をした「眉山」と名付けられた遍路小屋＝徳島市新町橋2丁目